

和歌山

地域面3ページ

和歌山支局

〒640-8154 和歌山市六番丁5
和歌山第一生命ビル4階
TEL073(431)1411
FAX073(433)0650
wakayama@mainichi.co.jp

【通信機関】

橋本	0736(32)0063	新宮	0735(28)1751
海南	073(482)0675	御坊	0738(22)2511
湯浅	0737(62)2870	田辺	0739(26)1026

【広告問い合わせ】

073(423)9291

【購読問い合わせ】

0120-468012

星の占い
マーク・矢崎
9日

熊野のミツバチに魅せられ

絵と文・熱田親憲 題字・熱田泰華

熊野古道

みづはちの記

①

熊野(田辺市本宮町)に生まれ、地元のために働き、退職後も田辺市教委にご奉公しながら、週末はミツバチの自然養蜂に励んでおら

れる中村全文さんを、田辺市本宮行政局の一室に訪ねた。机の上には採集したばかりの、ねっとりしたクリーム色の透けるような蜂蜜が置かれていた。自然養蜂のものは初体験のため、私の心も上気していた。

中村さんは開口一番、「ミツバチの事になると目が輝くんですよ」とのさあさいつ。自然養蜂を始めたき

「ミツバチを観察して、まず学んだのは人間学。女王バチを中心にして働きバチの役割が決まっています、その連携ぶりは、今や人間社会以上です。次が女王バチの分蜂という分家制度。新しい女王蜂が誕生すると、親の女王蜂は速やかに家来の岩を背に日の光をいっ

たらし、人工授粉の必要がなくなり、コストが下がります。工業的効率が万まです。その知恵も感得ものだ。 週のうち1日は愛妻弁当持参で山歩き。巣箱のチェックに専念する。ポイントには、天敵の虫の駆除、分蜂の状況、働きバチの蜜の付き具合が中心。時には切り株の中をくり抜いて蜜ろうを塗ったり、一部を焦がしたりして憩いの住み家づく



国道168号の熊野川沿いに

かけを尋ねると「父が山林にミツバチの巣箱を置きに行くのに同行したり、父が使っていた古巣箱をみてロマンを感じ、蜜蜂の世界や養蜂方法を独学で学んだ。試しに父の使った古巣箱を山に置いたら、ミツバチが留まり、この道に入った。留まったハチを初めて見たときは興奮しましたね」。

「熊野のミツバチが中村さんの気持ちに添り、農業も果樹園芸も

野川の蛇行でできた深い水たまりがあり、岸辺には大小の草木が生えてほんのり明るく、涼しく、木陰にテントでも張りたくなるような空間である。住み心地はミツバチも人間も同じなのかもしれない。この岩陰には、孫たちのためにも自然の熊野に戻すべきで、涼しげに働き蜂の巣にかよふ

予定) (次回は11月13日掲載)

「人間以上の知恵に感動

秦華